

養豚管理獣医師として向き合う 農場衛生管理向上の取り組み

石関 紗代子 先生

(有限会社サミットベテリナリーサービス)

日時：2019年10月7日(月) 15:00 - 16:30

場所：日本生物科学研究所 管理棟 会議室 2・3

【要旨】

有限会社サミットベテリナリーサービスは、代表石川弘道以下、養豚専門の管理獣医師5名が在籍し、養豚場への衛生指導を含めたコンサルティングを行っている。2018年末時点のクライアント農場計120件は東北地方から沖縄県まで全国に分布しており、養豚場の規模や品種、飼養方法など多様であることが特徴である。

これらの養豚場において、養豚管理獣医師に求められている役割は、養豚場の「豚」、「人」、「仕組み」に対するサポートである。

「豚」に関する衛生指導内容は、疾病対策と農場防疫（バイオセキュリティ）、そして飼育環境管理や技術指導が主である。疾病問題が発生した際の対応はもちろん、新たな病原体の農場への侵入を防ぐための、そして農場内での病原体の感染拡大を防ぐためのバイオセキュリティの構築が、養豚管理獣医師としての非常に重要な役割である。特に昨今、豚コレラが野生のイノシシで拡大する中、改めてバイオセキュリティを見直す必要性が全国的に高まっている。本研究会では、最近の疾病状況と、バイオセキュリティの現状と改善点について紹介させていただく。

また、「人」に対する教育も獣医師の重要な役割である。定期訪問で農場を訪問した際に、管理者を対象としたミーティングや講習会を開催し、養豚衛生管理の基礎知識の教育を行う。そして「仕組み」に着目する視点も必要である。これは養豚場の組織としての「仕組み」であり、農場HACCPやJGAP畜産版などを活用して、より信頼できる畜産物の生産体制を構築する。獣医師は専門知識に基づくリスク分析の助言を行い、生産者と一丸となってより良い組織づくりを目指す。本研究会ではこれら「人」「仕組み」に対する養豚管理獣医師の取り組みについて紹介させていただく。

また、まだ決して数の多くない女性の養豚管理獣医師として臨床現場に向き合う中で、感じたことやエピソードなども合わせて紹介させていただきたい。



主催

一般財団法人 日本生物科学研究所

<http://nibs.lin.gr.jp/>